


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	熊本空港国内線別棟	階数	地上2F		
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷18	構造	S造		
用途地域	-	平均居住人員	0人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年8月3日		
敷地面積	199,063 m ²	作成者			
建築面積	9,057 m ²	確認日			
延床面積	6,559 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.3


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	-
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	-
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	-
C	★	劣る	0.5未満	-

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

72%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	92.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	73.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	92.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	96.7

評価点

90

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本空港国内線別棟	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷18	構造	S造
用途地域	-	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年8月3日
敷地面積	199,063 m ²	作成者	
建築面積	9,057 m ²	確認日	
延床面積	6,559 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値: 100%
②建築物の取組み: 72%
③上記+②以外の: 72%
④上記+: 72%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 90

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 92.7

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 73.7

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 92.5

重点事項4: 循環型社会の実現

評価点 = 96.7

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

安心して利用できる機能的で無駄のない施設。

Q1 室内環境

アルミ窓の遮音性能をT2とする。
空調ゾーニングを行い、ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能。
全面的にF☆☆☆☆、VOC発散量が少ない建材を採用。

Q2 サービス性能

防汚性の高い仕上を採用。
建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。
屋外露出ダクトはステンレス製を採用。
災害時の運用を考慮し、保安室は空調・換気ともに単独運転可能。
ゆとりある階高とし、将来改修の妨げとなるブレース、設備シャフトを極力少なくする。

Q3 室外環境（敷地内）

既存施設と調和のとれた外観を形成。

LR1 エネルギー

設備システムの高効率化を図る。

LR2 資源・マテリアル

節水型の便器を採用。
高炉セメントを基礎躯体に使用。
砕石、ビニル系床材はリサイクル材を採用。
熊本県産材を使用。
躯体と仕上が容易に分別可能な工法を採用。

LR3 敷地外環境

LCCO2排出率が一般的な建物の75%以下。
燃焼機器を使用しない。

その他

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄						
Q 建築物の環境品質								2.6
Q1 室内環境					0.40	-	-	2.7
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T2		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.1	0.35	-	-	2.1
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		空調ゾーン毎に冷房・暖房の選択が可能なシステムとしている		4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				2.0	0.25	-	-	2.0
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-	
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	-	-	
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		全面的にF☆☆☆☆、VOC発散量が少ない建材を採用		5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の移動等円滑化基準を満足		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.50	-	-	
3 内装計画				-	-	-	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上を採用		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		トイレ毎に清掃用流しを設置、点検口600角		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法の1.25倍		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		等級2		4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				1.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトはステンレス製としている		4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種すべての期待耐用年数は40年以上としている		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		災害時運転を考慮し、保安室は空調・換気ともに単独運転可能		4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.4m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.082	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm:0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.50	-	-	4.7
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型の便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.4	0.60	-	-	4.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントを基礎躯体に採用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン砕石、ビニル床タイル、ビニル床シート、タイル	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		熊本県産材を使用	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式間仕切壁	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高炉セメントの使用	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 熊本空港国内線別棟

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		90
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				92.7	0.40	37.08
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				73.7	0.20	14.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.5	0.20	18.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				96.7	0.20	19.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数